

高齢者腸管嚢胞様気腫症10例の臨床的検討

なが み はる ひこ た ばら ひで き せ しも たつ ゆき
 長 見 晴 彦 田 原 英 樹 瀬 下 達 之
 さ とう ひろし ひがし こういちろう あら かき まさ とし
 佐 藤 博 東 耕一郎 新 垣 昌 利
 ひろ せ まさ ひろ
 廣 瀬 昌 博

キーワード：腸管嚢胞様気腫症，腹腔内遊離ガス，門脈ガス

要 旨

腸管嚢胞様気腫症（pneumatosis cystoides intestinalis；PCI）は1730年に Du Vernoi が最初に報告した腸管壁内に多数の含気性嚢胞を形成する原因不明の疾患である。本邦でも1901年に Miwa によって初めて報告され，以後画像診断の進歩にともない報告例も増加している。一方，PCI には腹腔内遊離ガスや門脈ガス（portal venous gas：PVG）を随伴する症例もあり，PCI 随伴性の消化管穿孔や腸管壊死の鑑別診断も重要となる。今回著者が過去に経験した高齢者 PCI の10症例を臨床的に検討したのでその臨床的特徴と予後因子について報告する。

症 例

過去5年間に著者は外来，入院中の患者で腹部症状に対する精査目的にて腹部 Computed tomography（CT）検査を行ったところ10症例に PCI を認めた。10症例中外科的治療を要した症例は1例のみであり，その他の症例は絶食，輸液，抗生物質投与，原因薬剤の中止，排便コントロールなどの保存的治療により PCI は消失して症状も軽快した。以下に代表的な4症例を提示する。

症例1：67歳男性。施設入所中の統合失調症例

Haruhiko NAGAMI, et al.

出雲徳洲会病院総合診療科

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院 総合診療科

（リスペリドン内服中）でありサルコペニア状態であった。施設内で突然の血圧低下，意識混濁があり救急搬送された。来院時の腹部 CT にて上腸間膜動脈症候群による十二指腸水平脚への長期圧迫から惹起された十二指腸水平脚～胃全周性の PCI を認め PVG も合併していた。本症例は来院時に既に敗血症性ショック状態にあり気管内挿管，昇圧剤投与を行ったが救急搬送後約6時間後に死亡した。動脈血培養細菌検査で Clostridium perfringens が検出された。詳細は他誌に報告した¹⁾。

症例2：80歳男性。誤嚥性肺炎にて入院加療中であつたが夜間せん妄に対してリスペリドンを服用し，その副作用によって慢性便秘傾向にあり適宜緩下剤を服用していた。入院加療中に腹痛，嘔吐，発熱を生じたために腹部 CT 検査を行ったところ